

**地方都市で発達に不安を抱える就学前児童を育てる母親が直面する困難や不安**

— 家族内の役割分担と社会資源の活用をめぐる —

○北海道大学大学院 保田 真希 (008291)

キーワード： ケア・ジェンダー・発達障害

**1. 研究目的**

本報告の目的は、地方都市で特別なニーズや発達に不安を抱えている就学前児童を育てる母親が直面する困難や不安にはどのようなものがあり、それらにどのように対応しているのかを検討することである。本報告は、X県A市にある子ども発達支援センターを利用している家族に対して行った聞き取り調査の一部を整理し、分析するものである。

**2. 研究の視点および方法****(1) 調査の概要**

本調査は、X県A市にある子ども発達支援センターを利用している全世帯(47世帯)を対象としている。子ども発達支援センターを通じて、利用している全世帯(47世帯)に依頼文を配布し、実際に、協力を得られた19名に対して個別に半構造化インタビューを実施した。その際、録音をせずに、聞き取りの内容を記録した。そのため、本報告はこの記録をもとに、結果を整理し、分析していく。本報告で分析の対象となるのは19例である。

**(2) A市にある子ども発達支援センターの特徴**

X県A市にある子ども発達支援センターは、A市とその近隣の4つの町に住んでいる就学前児童を対象とした児童発達支援事業所である。対象としている児童は障がいのある就学前児童や、発達や発育に心配な点がある就学前児童、落ち着きのなさや行動、言葉が気なる就学前児童である。また、A市にある子ども発達支援センターは、言葉・運動・精神面等の発達に心配のある就学前児童についての相談と、発達を促していくための訓練を保護者と一緒に行っていく場所であり、子どもと保護者が一緒に通うという特徴がある。

**(3) 研究の視点**

就学前の時期は、特別なニーズや障害の有無にかかわらず、家族によるケアが必要な時期である。子育ての大変さや障害児を育てる家族の困難、発達障害を持つ親の大変さは従来から指摘されている。なぜ、ケア役割を担うのかについては、「ケア＝女性の役割・労働」という言説や規範、「パワー(権力)」「経済的資源」「時間資源」などの資源の配分が関係していると考えられている。しかし、ケアをめぐる生じる困難はケアそのものからだけでなく、複合的に生じるものではないだろうか。そこで、本研究は家族の中で役割分担をどのように行っているのか、資源や社会関係についても着目し、地方都市で特別なニーズや発達に不安を抱えている児童を育てる母親が直面する困難や不安とそれらにどのよう

に対応しているのかを検討する。

### 3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会研究倫理指針を遵守している。また、本研究は北海道大学大学院教育学研究院における人間を対象とする研究倫理審査で承認されたものである。さらに、聞き取りを始める前に、協力者に対して調査の趣旨や概要、断ってもよいこと、データの取り扱い方法などを記載した資料を提示し、資料に沿って口頭で説明し、データの利用に関する同意を得ている。本研究は、協力者の匿名性の保障と個人情報の保護に基づき、個人の特定がなされないように細心の注意をもって行っている。

### 4. 研究結果

役割の分担については、女性が家の役割を中心的に担い、行っていた。このような役割の分担が諸困難や不安と関係している場合があった。

特別なニーズや発達に不安を抱えている就学前児童を育てる中で直面している困難や不安は主に4つある。第1に、ケア（子育て）そのものから生じている困難である。子どもとどのように関わったら良いのかがわからない、外出先での対応や子どもの特性に合わせたかかわり方が難しいなどである。第2に、子どもの発達や障害に対する不安や困難である。サービスが利用できないことで生じた困難、将来のサービス利用に関する不安、小学校入学に関する不安、特別支援学級か普通学級かを選択することへの不安、職業選択に関する不安などである。第3に、家族内の役割の分担・ケア役割の固定化から生じている困難である。特に、役割が固定化され、ケアの負担が女性に集中することで困難が生じていた。第4に、子ども発達支援センターに子どもと一緒に通うことで生じた困難である。特に、家事や仕事の時間を調整することと関わって困難が生じていた。

### 5. 考察

住んでいる地域、子どもの障害の特性や度合い、抱えているニーズの違い、母親が子どものニーズをどのように捉えているかによっても、母親が直面する困難や不安は異なる。就学前という時期は、障害か否か、曖昧な状態で子育てをしなければいけない場合があり、利用できるサービスや社会資源が限定される場合がある。しかし、サービスが限定的・利用できない場合でも、子どもがニーズを抱えているため、家族でケアをする必要がある。その結果として、家族のケアの負担や責任が増える。特に、ケア役割が固定化されている場合にはケアの負担が女性に集中するため、困難や不安が生じていた。そのため、今後、家族の中で役割分担がどのように決まるのか、それらが困難や不安にどのように関わっているのか、またどのような社会資源が必要なのかについて検討していく必要があるだろう。